

優秀賞

## 弟が生まれた

石川県 白山市立朝日小学校四年 板谷 漣

弟が生まれる前わたしは、公園の草むしりを手伝っていました。家に帰るといよいよ赤ちゃんが生まれる準備がととのっていました。お母さんから

「赤ちゃんがもうすぐ生まれるんだよ。」と聞いて、びっくりして、とまどってしまい、どうしたらいいか分からなくなりました。

わたしは、お母さんの足をタオルであたため、そのタオルをお湯につけてしぼって、またまたあたたためあげました。それから、お母さんのせなかをさすってあげたりしました。それからわたしは、お母さんの側で、お母さんが、どんなことをしたかをノートに書きはじめました。お母さんが、お風呂に入ったときは、おけでお湯をかけてあげました。

そのことをノートに書いているときに、お母さんが

「いたい、いたい…。」

と言いはじめました。その初めて聞くお母さんの声にびっくりしました。お母さんをうちわで、あおいであげながら、「赤ちゃんはどんな顔をしているのかな…」と思っていました。

お母さんのじんつうがますますひどくなりました。じよさんぶさんが

「もうすぐ生まれるよ。」

と言った時、わたしはどきどきしました。「赤ちゃんはどうやって生まれるのかな…」と思っていました。

それからしばらくして赤ちゃんの出てくるころが開き始めて、じよさんぶさんが、ピンセットを取り出して、たいばんの赤ちゃんがわれるくらいの手すりをつまみました。そのとき、

「われた。」

とじよさんぶさんが、さげびました。羊水が少し出てきて同時に、かみの毛みたいなものが出てき

ました。最初わたしはお母さんのおなかの一部かなど思っていました。じよさんぶさんに

「これは赤ちゃんの頭のとっぺんだよ。」と言われてびっくりしてしまいました。じよさんぶさんが赤ちゃんとお母さんの赤ちゃんが生まれるところにクリームをぬりました。そして、生まれる前の赤ちゃんの心ぞうの音を聞きました。それから、お母さんがふんばったときに赤ちゃんの顔が出てきました。

わたしはびっくりしました。なぜかと言つと、赤ちゃんの顔の色がむらさきだったからです。その顔は人間の顔ではないように見えました。そして、赤ちゃんが生まれました。わたしは初めて赤ちゃんの生まれてくる様子を見て、どれほどお母さんは苦労するかを知りました。そして、本当に感動しました。元気な男の赤ちゃんは、三千百七十gで少し大きかったです。

そのあと、赤ちゃんのへそのおを切ったり、赤ちゃんのたいばんを見ました。翌日庭のきんもくせいの木の下にたいばんをつめました。

今、赤ちゃんは、だっこしないと泣いてばかりの子になっています。

